

「第2期第1回環境教育・環境学習推進懇話会」議事録

- 1 日 時：令和6年6月18日（火） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市役所3号館3階 302会議室
- 3 出席者：桐谷座長、米田副座長、浅見構成員、内船構成員、角田構成員、堀井構成員、宮川構成員、山田構成員、吉田構成員（計9名）
- 4 事務局：環境部環境政策課（出雲課長、畔柳主査、定久）
- 5 傍聴者：なし

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 環境教育・環境学習推進懇話会の実施について
 - (2) よこすかECCO通信について
- 3 報告
 - (1) 令和6年度 教員向け環境学習講座の実施について
 - (2) 令和6年度 環境月間イベントの実施結果について
- 4 各構成員からの活動報告
- 5 その他

第2期構成員（令和6年4月1日～）による初の会議となったため、「環境教育・環境学習推進懇話会設置要綱」第4条第1項の規定に基づき、座長及び副座長を互選し、以下の2名が選任された（また、同要綱第4条第2項の規定に基づき、座長が議長となり会議を進行）。

座 長：桐谷 範彦 氏（環境教育指導者）

副座長：米田 美秀 氏（日産自動車㈱追浜工場）

◆ 2 議題（1）環境教育・環境学習推進懇話会の実施について

〔事務局からの説明〕

令和4年度から「環境教育・環境学習推進懇話会」が設置され、第2期が始まるタイミングでより効果的な実施に向け、今後の実施方法等についてご意見をいただきたい。

■ 桐谷座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

環境教育・環境学習推進懇話会を今後どのようにしていくか、根本的なところから議論したいと思う。

■ 事務局（出雲課長）

環境教育指導者と教員をどのように結びつけていくか、環境教育・環境学習推進懇話会の在り方を考えたいと思い、議題を提案した。

教育現場の指導の進め方、「総合的な学習の時間」のテーマ等の意見を伺いたい。

■吉田構成員

「総合的な学習の時間」は環境教育に皆が取り組んでいるのではなく、その時の子ども達の様子を見て、指導者がテーマを選び行っている。

「総合的な学習の時間」は小学3年生から6年生の4年間のうち1年間を「環境学習」と位置付けている学校もあれば、自由に取り組む学校もある。

環境教育に積極的に取り組む先生もいれば、昨年に引き続いたテーマで取り組む先生もいるので、小学校の実態はばらつきがある。

■山田構成員

中学校は働き方改革の一環として、個人の力量により「総合的な学習の時間」のプログラムが変わるよりは、学校ごとに決まったテンプレートがあり、学年職員の意向でプラスはでき、ある程度かたちを作っていく方向に動いているので、今プログラムに組み込んでしまえば根付いていく可能性はある。

例えば、「横須賀市環境基本計画 2030」の「脱炭素型のまちづくり」などを、中学校と上手く溶け込ませると良いと思う。

常葉中学校では、「横須賀の魅力と課題」をゼミ学習で行っており、「都市化」を魅力と言う生徒もいれば、「自然」を魅力、また、「海洋ごみ」が問題と言う生徒もいる。

先日、鎌倉市に行き、これから横須賀市との比較を行うが、その中で横須賀市が目指しているものをどのように感じるかを組み込んでいくことで、自然に環境についての意識が付くプログラムを作ることが可能である。

早い段階でそのようなプログラムを浸透させないと厳しい現状である。

■事務局（定久）

先ほどの説明に補足するが、学校現場の声を聞く機会がなかなかなく、この「環境教育・環境学習推進懇話会」を通して先生の話の伺いながら一緒に考えていけることは良い機会だと感じる。

「環境教育・環境学習推進懇話会」第1期時に学校現場の先生の参加が難しく、現場の意見が聞けない中で話を進めて活かせるのかと考えたときに、確認ができないまま話が進むことがあり、せっかく懇話会があるので連携を取れるかたちを考えていきたい、今回の議題に挙げた。

今まで懇話会は6月、10月、3月の年に3回実施していたが、学校でカリキュラムを作成する時期、カリキュラムに反映できる時期があれば、年3回に拘るのではなく、必要なタイミングで実施する、また、現場の先生と効果的な意見を交換できる場はどのようなかたちが良いのか、開催方法、開催時期を含めてご意見をいただきたい。

■桐谷座長

これまでの「環境教育・環境学習ネットワーク会議」、「環境教育・環境学習推進懇話会」（第1期）では、6月は夏休みに開催するイベントについての議題が多かったが、ニュートラルな状態にし、もっと教育現場寄りに考えていく場にしてはどうかのご提案でよろしいか。

■事務局（定久）

教育の推進、現場との連携の面では、現場の先生の声を聞くためには、なかなか参加できないよりは、参加していただけるかたちで実施できると良いと感じる。

■桐谷座長

第1期から参加されている堀井構成員、浅見構成員いかがか。

■堀井構成員

学校現場の先生がカリキュラムを作るとき、決まったものと、決まっていないものがある。

実際行ってみて子ども達の様子をみながら決めていくものと、事前に準備ができるものがある。

前年度の2、3月はなかなか次年度を見通すことはできないが、「総合的な学習の時間」の計画が終わり、子ども達にどのような力が付いたのか、実施したものを反省や見直す時期であるので、そこで提案ができれば次年度に繋がっていくのかと感じる。

固定したカリキュラムの中に入り込んでいくには、「総合的な学習の時間」だけではなく、「理科」などは環境学習をする学年、時期が決まっているので、学びとこちらが発信するものを繋げていくと発想しやすいのかと感じる。

ただし「よこすかのかんきょう」とカリキュラムがどのように位置付くのか、先生方に見えるように提示していくことが重要と思う。

年度末に話すと共に、年度始めに先生方がカリキュラムを作り確認していく段階で、例えば理科ならここが繋がると具体的に提示できると良いと感じる。

■浅見構成員

堀井構成員と同じ意見である。

■事務局（出雲課長）

カリキュラムが決まっているものに入り込む場合、2、3月では遅いのか。

■堀井構成員

「総合的な学習の時間」は固定されたカリキュラムはない。

学校によってはある程度固定されたものとして例えば3年生で環境、4年生で地域を扱うなどの領域ごとのきまりはあっても、どのような学習にするのかは、実際にスタートし、子ども達と対話をしながら決めたり、見えていくものである。

その時に先生方がゼロの状態子ども達に向き合うのか、または前年度からこのようなものを使って子ども達と「総合的な学習の時間」が作れる発想になるためには、前年度2月、3月頃だと発想する。

「総合的な学習の時間」は読めないところがあり、学校の実態や先生のモチベーションや思いとリンクすることが多く、気持ちが高くない先生だと、なかなか向かえないところもあるかと思う。

理科は必ず環境教育を通るので、そこにあると引っ掛かる先生も多くなると感じる。

■事務局（出雲課長）

以前、教育委員会にいたときに学校現場とのやりとりで2月までに決めていただかないと翌年度に動けず、早ければ早いほど良いと言われていた。

今まで3月頃に「環境教育・環境学習推進懇話会」を開催していたのは遅く、2月に決めるには1月に開催した方が取り組みやすいのではないかと感じた。

■堀井構成員

中学校の理科で次年度のカリキュラムを編成、見直すのは前年度に行うと思うが、その時期はいつ頃か。

■山田構成員

理科は担当者が決めるので、明日から調整することも可能である。

次年度の様子やイメージが付くのは3月頃である。

早めに分かっていれば良いが、具体的な約束や、大掛かりなプロジェクトになればなるほど、はっきりしたことが分かるのは3、4月になってからである。

■事務局（出雲課長）

小学校はいかがか。

■吉田構成員

カリキュラムの見直しは教科書がある教科は教科書を改訂する年が大きな境目になると思う。

教科書は5年に一度改訂するが、3、4年目には2、3月にカリキュラムの見直しはするが大きな変化はない。

「総合的な学習の時間」は唯一教科書がない授業であり、4、5月に新しい学年の体制が整い、子ども達にどのような力を付けさせていくかエンジンが掛かる時期であるので、2月では年度末のバタバタしている中に埋もれていくのではないか。

私がこの懇話会に参加し情報を吸収し「総合的な学習の時間研究会」で投げ掛けたとしても、全校に研究員がいるわけではないので一部で止まっていく可能性がある。

4月に全小学校の「総合的な学習の時間」の担当者が集まる総会で資料配布やPRするのが現状である。

「総合的な学習の時間」については、2月ではなく4月で間に合うのではないか。

4月の総会に合わせるのであれば、「環境教育・環境学習推進懇話会」は前年度の2月、3月の開催が良いのではないか。

■堀井構成員

昨年度から内船構成員と理科フェスティバルを行っていく中で、学習指導要領に当てはまるカリキュラムと同時に、その枠をはみ出ても子ども達の科学的な欲求や環境に対する思いなどが集められるイベントは学校教育と共に重要性を感じている。

■桐谷座長

「環境教育・環境学習推進懇話会」はどのような方向性で進めるのか、もっと学校現場寄りの進め方、考え方、議論の仕方でも良いのではないかと事務局の提案だがいかがか。

■内船構成員

博物館の立場で「環境教育・環境学習懇話会」に関わっているが、教育現場の先生方のスケジュールは構成員の立場だけではなく博物館の学芸員としても新鮮だった。

この懇話会は学校現場に関わる先生や、密に連携を取る指導主事の先生、事業者や環境教育指導者、行政など環境教育に関わる方が参加している。

いろいろな現場で環境教育に関わる新しい流れが何年かに一度起きていると感じており、教育現場ではコロナ禍でICT化が一気に進み、働き方改革がキーワードになり先生方の動向が変わられているのがこのような場で共有されており良いと思うし、事業者はSDGsやカーボンニュートラルに敏感に対応しているので、スピード感をこのような場で共有していただけるので大事だと感じる。

指導者はそれを現場に落とし込んでいるが、博物館も社会問題を博物館のコンテンツを通し子ども達に伝える機能を担っていると思う。

それぞれのセクターの方々にとって「今、きているもの」は微妙に違うものをもっており、それらを搾り合わせるのには、学校現場に合わせるだけではなく、互いに共有することで、学校現場からも歩み寄れるところもあるのかと感じた。

■桐谷座長

学校教育現場、環境教育指導者、事業者がそれぞれいろいろな世の中の動きの中で、「環境」というキーワードを元に何を大事にしているのかを共有する場で良いのではないかとということか。

■内船構成員

その通りである。

■桐谷座長

学校の教育現場だけではなく、いろいろなところからでよろしいか。

■内船構成員

具体的な例は、日産自動車㈱など大企業が環境問題に対してアンテナを張っている中で、以前、座長から聞いたワークショップなどの取り組みの背景をまだ十分に聞けていない。

聞く機会はいろいろな立場の方がいるのでより深い理解に繋がると思う。

■宮川構成員

小学校の「総合的な学習の時間」で環境出前事業「学区の自然環境体験事業」を利用している。

4年間で46校全てを回ろうとしており、今年3年目であるが、新規の学校は2校しか申し込みがなく、他は実施した学校からの依頼である。

先ほどの話に出たように、先生の思いが入ってくるのではないかと感じた。

過去に利用していただいた学校からは評判が良く、リピートし使用していただいているが、新規開拓はなかなか難しい。

来年度でこの事業は一旦終了するので、来年度中に今まで実施していない学校を多く行

いたい。

実施のためにはどのようにこちらから働き掛けをしたら良いのか知りたかったが、学校現場の話聞き参考になった。

企業の取り組みの背景を知ることにより、自分の仕事に反映できれば良いと思う。

また、市の取り組みを学校に知っていただき利用していただく機会になると良いと思う。

■角田構成員

保育園では「エコ育」として年間のカリキュラムを立てている。

0歳から5歳までなのでエコは難しいが、生活の中で子ども達の姿を見ながら、例えば水が出しっ放しだと水がもったいないと言うレベルである。

小学校に上がる前にエコに関する興味関心が持てたらとの思いで日々、声掛けをしている。

この懇話会で他の方々のいろいろな意見を聞き、保育園で活かせたらと思っており、情報提供していただくと有難い。

■桐谷座長

事務局、いかがか。

■事務局（出雲課長）

これから目指す方向が見えてきた。情報を聞いた上でうまく関連させることはやっていくべきだと感じた。

新規獲得は行政にとっては難しい課題である。

4月の総会で上手くいけば新規加入できると感じたので方向性をまとめていきたい。

開催時期、回数は検討し、見直しを行いたい。

■桐谷座長

ただ今ご意見をいただいたが、各構成員が何をやっているのか、何に関心があるのかをもう少し共有してもいいのではないか。

その上でどのタイミングで行うと良いのか、現場で役立つのかのステップだと思う。

今まで自己紹介で話す機会があったが、もう少し実務的な内容があっても良いのかも思えない。

■事務局（出雲課長）

テーマをどのように見付けるか、吸い上げ方も考えたい。

■桐谷座長

企業側からすると何に関心があるのか分からないところもあり、「こんなところかな」と思い、小学生向けの環境教育をセットしている。

環境教育指導者は、それぞれのテーマで、学校で授業を行っていると思うが、「どのようなところにもっとニーズがあるのか」、「最近の子ども達はもっとこのようなところに関心がある」、「学習にもっと役立てたい」など、把握できているのか。

これについて議題にしても良いのではないかと思うがいかがか。

■吉田構成員

小学校1、2年生は「総合的な学習の時間」はなく「生活科」がある。

その前段階に保育園、幼稚園があり、いろいろな遊びを通して気付くことがたくさんあり、低学年は「生活科」で気付きを大事にしながら、自然や虫、街などの基礎的な知識を学び、3年生でもう少し幅を広げ、自分達の住んでいる学区にはどのような商店街が広がっているのか、4年生では県に視野を広げ、5年生では日産自動車(株)の見学やお米作り、6年生では憲法や経済、歴史と広がっていく。

我々はそこに繋がる何かがあれば飛びつかない。

「環境」と言っても「自然環境」や「都市環境」、「地球」、「海」、「山」、「森」、「川」と幅が広い。

学校もいろいろな立地があり、それらが「ある」、「ない」がある。

例えば、近くに山がある学校ではそのような環境教育に取り組みやすいが、街中にある学校ではそのようなテーマに取り掛かりにくい。

先ほどの出前授業「学区の自然環境体験事業」に新規の申し込みがないと言うのは、なかなかうちの学校の周りにはそのような環境がないと先生方が判断して申し込まないのも一つの要因としてあるのかもしれない。

丁寧に新規の申し込みを取りにいくのであれば、「この学校ならこのようなところを題材にし、このような勉強ができる」とプレゼンテーションすると、先生達の興味が湧くと思う。

残りの10数校は、どのような場所にあり、どのような自然や街に繋がりがあるかを示すと先生達の学習のイメージが膨らみ少し興味を持つと思う。

なかなか新しいことにチャレンジするモチベーションは人それぞれで、狙うところがあるのであれば、その辺りを充実させると満遍なくいきわたるのではないかと思う。

出前授業に魅力を感じた学校は、もう一度やって欲しいと思う。

その貴重な教育活動を全部の学校が試せないのはもったいないと感じるので、学校と上手く擦り合わせ、皆さんに発信したいと感じた。

いろいろな環境がある中でどこにスポットを当てるのか、どの学年に当てるのかによりまちまちであるので幅広い議論になると思う。

■山田構成員

中学校は1単位50分なので、講演会などは2単位時間を取り、80分から90分の講演を行い、途中で休憩、後半は意見交換や感想を書く、または1単位でも30分くらいの活動で、残りの時間は感想を書くプログラムを提案していただくと年間計画にはめ込みやすい。

年間指導計画は夏休み中に次年度を考えるが、教育課程を作る担当など立場がある人と繋がるとはめ込みやすいので、学校のどの役職の人と繋がるのかが大きいと思う。

「環境教育・環境学習懇話会」は今期からの参加だが、昨年度よりももっとパワーアップしていく方向性だと感じている。

公立学校は転勤があるので、太いパイプを作っておけば、先生がプログラムを残し次の学校に転勤したときにまた開拓するなど、長い目で見れば十分広げていくことが可能ではないか。

■桐谷座長

他にご意見はあるか。

■浅見構成員

資料1「環境教育・環境学習推進懇話会の実施について」、1 環境教育・環境学習推進懇話会について (2) 設置の目的・方針に「……さらなる取り組みを推進していくため。」とあるが、何の取り組みを推進していくのかを明確にすると良いと思う。

また、「ため。」という言葉は理由になるので、設置の目的ではない。

「推進していく。」にするか、または、「設置の目的」を「設置の理由」にした方が良いと思うがいかがか。

■事務局（出雲課長）

テーマを明確にしていかなければならないと思うが、「環境」とは山や海の「自然環境」、ゼロカーボンやカーボンニュートラルの「地球環境」、ごみの関係の「生活環境」もあり、行政ではそれぞれ部署が異なり連携していくのが難しい。

「横須賀市環境基本計画 2030」を確認し、年度ごとにテーマを絞っていくのも手法の一つだと思う。

■桐谷座長

貴重な意見が出たので、事務局で検討していただきたい。

◆2 議題（2）よこすかECO通信について

〔事務局からの説明〕

平成23年より年4回発行している「よこすかECO通信」について、紙媒体を削減し電子媒体を主にしているが、閲覧数も少なく情報が届いていない現状であるため、今後の在り方についてご意見をいただきたい。

■米田副座長

学校に電子データで送り児童がタブレットで見ることは可能なのか。

■吉田構成員

誰向けに発行している誌面なのか。

■事務局（定久）

市内の児童、生徒向けに発行している。

■吉田構成員

漢字や文字が多く、環境に関する専門用語が出てくるので児童の半分は読めない。

「よこすかECO通信」2ページ「環境学習イベントのおしらせ」は子ども達が興味を持つだけでなく、それに協力するのは保護者であることを考慮すると、子ども向けの誌

面として妥当なのかと感じている。

■事務局（定久）

実際、学校現場ではどのようにしているのか。

■吉田構成員

学校によってまちまちかと思うが、浦郷小学校は教員間の回覧で終わっており、子ども達の目に触れている学校がどのくらいあるのかは分からない。

クラス数届けは各クラスに掲示することはできるが、10部では回覧で終わっているのが実状である。

■米田構成員

白黒では興味も惹きにくい。

■吉田構成員

視覚的なインパクトは薄い。

■山田構成員

今年度から学校ホームページが変わり、リンク集に「横須賀市教育委員会」と「横須賀市『教育』のページ」が固定でリンクされている。各学校に担当者がおり増やしても良いので、それに加えることは負担なくできると思う。

習熟度などいろいろな意味で子どもが見ることは難しいが、保護者が興味を示しアクセス数が増えるかもしれない。

子どもの Chromebook にあげることも可能であり、ホームページにリンクを貼ることも可能である。

■桐谷座長

学校ホームページは各学校で作っているのか。

■山田構成員

学校名で検索すれば誰でも閲覧できる。

■桐谷座長

ホームページの管理者は誰か。

■山田構成員

担当者である。

■桐谷座長

ホームページにリンクを貼るのは負担なくできるのか。

■山田構成員

その通りである。

■桐谷座長

意見をいただいたが、事務局いかがか。

■米田構成員

まずは種まきで、どのように育つかはこれからである。

■山田構成員

ホームページの担当を行っているので、「よこすかE C O通信」のアドレスを教えてください、できればすぐに入れることはできる。

■事務局（定久）

市のホームページにアップしたものを、学校のリンクに貼り付けていただけるのか。
もしくはPDFファイルを送ると貼り付けていただけるのか。

■山田構成員

サイトの入り口になるだけであるので、PDFファイルでは担当者が毎回行わなければならないので大変である。

■事務局（定久）

新しく発行してもお知らせがないと見てもらうのは難しいと思うが、発行するタイミングでアナウンスしてもらうことはできるのか。

■山田構成員

学校ホームページのトップに「ページ更新状況」があり、更新作業を行うと載るが、リンク集のリンク先が変わっても反映されないので、希望する場合は担当者に「よこすかE C O通信」更新の通知が必要である。

■事務局（定久）

発行のタイミングで各学校の担当者に依頼すれば、更新していただけるのか。

■山田構成員

その通りである。

■事務局（定久）

校長会での依頼が必要か。

■山田構成員

断られることはないと思うが、担当者の業務が増える。

■吉田構成員

全学校が 100%統一してできるかどうかと言うと、自信はない。

■事務局（定久）

先ほど山田構成員から、子ども達の Chromebook にあげることでもできるとの話があったが、PDF ファイルを送れば子ども達の端末に届けることは可能なのか。

■吉田構成員

届けるのではなく、見に行くことができる。

■事務局（定久）

子ども達を知り、アクセスすれば Chromebook で見られるのか。

■山田構成員

各学校で「クラスルーム」を作っているので、担当の先生がそこに情報を上げれば見に行くきっかけが作れる。

ホームページや Chromebook に上げる手間は変わらない。

ただ、Chromebook は小学生と中学生の扱い方が違う。

Chromebook よりもホームページであれば大人も見ることができる。

■米田構成員

見てもらう機会は増えると思うのでチャレンジし、だめなら他の方法を考えたらいかがか。

■山田構成員

リンクを貼るだけでも効果があるかもしれない。

校長会で依頼するのであれば、全家庭にチラシを配布すると、各学校でホームページに上げざるを得なくなると思う。

更新ごとの依頼は摩擦が大きくなるかもしれない。

案内を配布することが校長会で通れば、担当者にリンクを貼る指示がいく。

■浅見構成員

承認するのは校長先生ですよ。

■山田構成員

はい、その通りである。

■浅見構成員

リンクを貼るには理由が必要だと思うので、校長会を通した方が良いと思う。

■事務局（定久）

リンクを使い見てもらう入り口を増やすにあたり、文字が主の誌面で子ども達は見てくれるのか。

■桐谷座長

先ほど吉田構成員から質問があったが、誰向けの情報誌なのかをもう一度議論しても良いのではないかと。

■米田副座長

電子で送ればページは増やせる。

■桐谷座長

「季節の生き物・自然図鑑」の記事を書いている内船構成員いかがか。

■内船構成員

小学生向けではなく一般向けに、毎号1面のテーマに寄せて記事を書いている。

1面や2面「環境学習イベントのおしらせ」は一般的な市民に向けて発信している。

全体としては一般向けと捉えて関わっているが、悪いことではなく、どのように活用していくのかだと思う。

今まで52号まで続いてきた「よこすかECO通信」をどのように活用していくかと、新しい「よこすかECO通信」を作るならどのように作っていくか、との議論に分かれるのではないかと。

横須賀市ホームページに号数とリンクの掲載しかないので、1面のテーマを掲載することにより、学校の先生、保護者が興味のあるテーマを「見てみたい」と思うのではないかと。

大人が見て、子どもにどのように伝えていくのかが次の議論になってくると思う。

現在の誌面構成は子ども向けには作られていないので、大人が活用しやすい見せ方にし、今後53号以降の「よこすかECO通信」は子どもにコミットした誌面構成にするのか、誌面を紙としてのリソースを考えずにいろいろ作れるので、直接語り掛けられるようにするのか、今まで通り誌面を作り、使う側を変えていくのかの議論になってくると思う。

■桐谷座長

良いアイデアをいただいたので事務局で検討していただきたい。

誰向けに発行するのかの議論はいかがか。

■事務局（定久）

事務局としては、児童、生徒に見ていただきたい。年齢の幅があるので、ふりがなや見せ方をどうするかは課題は出てくる。

保護者が入り口になることも大事だが、子ども達が環境に興味を持つきっかけとなってくれれば良い。

■米田副座長

読ませる必要はなく、見せる、興味を持ってくれればよい。

■事務局（出雲課長）

今いただいた意見では、作り方、見せ方を工夫すれば、全ての世代をターゲットにする

今までの考え方を継承しても良いのかと思う。

電子媒体であれば、4面に拘らなくても良い。

■浅見構成員

小学校の学校司書から校庭で見ることのできる植物を知りたいが、教育研究所のホームページに載っていないのかと問い合わせがあった。

自然環境・河川課のホームページを紹介したが、既に確認したとのことで、横須賀市自然・人文博物館に伺ったところ、ホームページには掲載していないと回答があった。

「よこすかE C O通信」を送付するときに、理科室や図書室への掲出の指示を出したらいかがか。

司書にバックナンバーを綴っていただくと図書館機能で調べたい子ども達が見られるのではないか。

または、「よこすかE C O通信」にバックナンバーのQRコードを付け、タブレットで見られるようにしたらいかがか。

■桐谷座長

いろいろなところに情報示唆があり、それをどのように使うかである。

■宮川構成員

横浜市の小学校では、環境教育情報誌「エコチル」を定期的に配布している。

子どもが見やすいようにフルカラーで「写真」や「イベント情報」、「環境クロスワード(エコワードパズルコーナー)」が掲載されている。

子ども向けにアピールするならば、遊び要素や目を引くものがあつたりすると良いと思う。

PDFならば誌面を増やせるので、そのようなものを参考にし、子どもが見たいと思うような誌面作りをすると良い。

学校から配布されると保護者も目にする機会があると思う。

■桐谷座長

いろいろなアイデアが出たが、事務局いかがか。

■事務局(定久)

すぐにできるものと、検討してからのものがあるが、今あるかたちを活かしながら、もっと写真を増やしたり、誌面構成を変えたり、いただいたご意見を参考に動けるところから取り組みたい。

■桐谷座長

お願いしたい。

紙媒体をなくし電子媒体に移行することに対して異論はないか。

ポスターの意見もあつたがいかがか。

■山田構成員

クラス数や生徒数に満たない数を配布されても活用できない。
代表的なものを掲示する、図書館など一定の場所に紙として保存することはできるので指定していただくと動きやすいので、電子化だけが全てではない。

■事務局（定久）

学級数プラス図書室等の枚数を配布した際、各学級で保存していただけるのか。

■吉田構成員

先生や司書次第である。

■事務局（定久）

図書室に置いてもらうことを前提にカラーで印刷する方法もあり、見栄えもすると思う。

■米田副座長

カラー印刷は必然である。

■事務局（出雲課長）

このままでは子どもの目に触れないので、ポスターは一つの方法である。

■事務局（定久）

図書室に掲示のスペースはあるのか。

■吉田構成員

学校により異なると思う。

■山田構成員

廊下の空きスペースや理科室に掲示することができる。

■桐谷座長

貴重ないただいた意見を活かし、有効な情報が必要な人に届くように検討していただきたい。

◆3 報告（1）令和6年度 教員向け環境学習講座の実施について

〔事務局からの説明〕

7月22日に実施する「教員向け環境学習講座」について報告を行った。

■桐谷座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

■浅見構成員

現在、教育委員会のイントラネットで募集を行っている。

◆3 報告（2）令和6年度 環境月間イベントの実施結果について

〔事務局からの説明〕

6月8日に実施した「環境月間イベント」について来場者数等の結果報告を行った。

■桐谷座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

昨年度は「キャンドルホルダーづくり」から今年度は「間伐材ホルダーづくり」とプログラムを変更したようだが、いかがか。

■事務局（定久）

キャンドルはCO₂の発生源になるので、今回は間伐材を使った木育のキーホルダーづくりに変更した。

■桐谷座長

間伐材はどこで用意したのか。

■事務局（定久）

間伐材のキーホルダーのキットを手配した。

■桐谷座長

横須賀市内の間伐材ではないのか。

■事務局（定久）

市内の間伐材ではない。

■角田構成員

保育園の子ども達は乗り物が好きで、殆どの子ども達が「よこすかYYのりものフェスタ」に行っている。

保育園の玄関に置いてあるチラシを子ども達が持って帰り、親に見せている。

子ども達は電車などに食いつくのかなと感じた。

子ども達は何かを作ることが大好きで、廃材を使って作っている。

■桐谷座長

保育園の中で廃材をリユースして作っているのか。

■角田構成員

自宅で要らなくなった袋や箱を持ってきて、自分たちで考え好きなものを作っている。

作ることが身近だと感じる。

■桐谷座長

会場は昨年と同じか。

■事務局（定久）

会場は昨年と同じであるが、イベントを行うには会場のライトが薄暗いのが気になる。
実施場所は「コースカ・ベイサイド・ストアーズ」に限らず、イベントのかたちを検討していきたい。

■桐谷座長

イベントの案内は行ったのか。

■事務局（定久）

「よこすかYYのりものフェスタ」の会場に周知パネルとチラシを置かしていただいた。

■桐谷座長

上の階には辿り着かない場合があるので、誘導が必要ではないか。

■事務局（定久）

もう少し早めに連携が取れば良かったと反省している。

■桐谷座長

次回に活かしていただきたい。

◆4 各構成員からの活動報告

■桐谷座長

スキューバダイビングを長くやっており、先日、石垣島に行ってきた。

サンゴを観察しているが、サンゴはカーボンの吸収の効果が大きく、海の中に溶け込む二酸化炭素量の1/10を吸収しているが、いろいろなところで死滅している。

海水温が上がるとサンゴが白化するが、2022年に行ったときは真っ白になっていた。

ハマサンゴは全部白くなるのではなく、半分白く、半分は茶色に残っている部分があったが、いろいろ調べてみるとサンゴの生態はまだよく分かっていない。

水温が影響しているのであれば全体が白くなっても不思議ではないのだが、2か月位するとまた元に戻ったりする。

まだまだ自然は分かっていないことがたくさんある。

地球温暖化と言うが、その影響が生物にどのように影響するのかまだ調べが付いていないと実感した。

■米田副座長

日産自動車(株)ではカーボンニュートラルの取り組みは行っている。

来年から塗料がシンナー系から水性塗料に変更するので、その取り組みを行っている。

「教員向け環境学習講座」の内容に興味があるので参加したい。

■吉田構成員

教員一人人としてできることは少ないと思うが、いろいろな方からの話をより多くの先生方や子ども達に広げていくことだと思っている。

今日の話をしっかり下していきながら、未来を担う子ども達の興味、関心が少しでも広がるような一助になればと思っている。

■山田構成員

理科を指導しており、堀井構成員から声掛けがあり懇話会に参加したが、担い手の話は明日からでもすぐに子ども達に意識付けできるので、学校の図書館やホームページで連携する際には率先して橋渡しをしていければと思っている。

■浅見構成員

土曜科学教室を教育研究所で開催している。

6月8日に自然・人文博物館で開催し、7月6日は日産自動車(株)を講師で開催する予定で非常に有難く思っている。

教育研究所としては教員向け研修を7月25日に天神島臨海自然教育園で萩原学芸員が講師となり、磯の観察会を実施する。

7月26日に海洋研究開発機構(JAMSTEC)に依頼し、ラニーニャ現象、エルニーニョ現象を取り巻く異常気象はなぜ起こるのか、災害対策の講座を開催する予定である。

少しでも学校の先生方に環境について考えていただく講座を開催したいので構成員の皆さんからの情報をいただきたい。

■内船構成員

企画展示「しぜん☆はくぶつチャンピオンシップ」の準備を現在進めている。

自然史系資料が織りなすオリンピック的なもので、自然資料の一番を展示する。

明日以降、チラシを配布するのでご覧いただきたい。

「自然・人文博物館」では今年度からリニューアル事業に向け大きなスタートを踏み出した。

いろいろな利用者からの意見をいただきながら良い博物館にしていきたい。

この懇話会では子ども達にどのように環境を伝えていくかを議論しており、博物館は自然環境のためだけに存在するわけではないが、環境に関して博物館でも扱えるコンテンツもあり、指導者の方に「博物館に行ってみたら。」と言われるようなかたちになると良いと思う。

構成員の皆さんと情報交換をする中で育てていきたい。

■宮川構成員

「学区の自然環境体験事業」の貴重な意見ありがとうございました。

未実施校に電話をして事業の説明をしたがなかなか上手くいかなかったので、今後は学校に伺い説明をしたいと思う。

学校の出前授業以外に自然観察会を今年度は観音崎で春と秋に開催するが、講師は内船構成員と山本学芸員にお願いしている。

定員は20名だが3倍に近い60名の申し込みがあり、殆どが親子の申し込みで、大人だ

けの申し込みは2組のみだった。

第1回目が終わったが、大変好評だった。

■角田構成員

保育園では「エコ育」を年間で作っており、構成員に就任するにあたり保育園で見直しを行ったが、子どもには難しい内容であると改めて感じた。

職員と「エコ育」についてなかなか話ができなかったが、これを機に話し合いができたことは良い機会であった。

乳児、幼児に「エコ育」をどのように伝えていくかを職員と話し合ったが、子ども達が日常生活を送っている中で興味があることに声掛けしていくことにした。

ごみ収集車に非常に興味があるので入り口とし、「子どもごみ教室」の派遣を依頼したい。先ほどの博物館の話は、子どもはとても興味があると思うので伝えていきたい。

◆5 その他 事務局から事務連絡

■事務局（出雲課長）

事務連絡が2点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、6月25日（火）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、北口駐車場駐車券の処理について。

■桐谷座長

以上をもって、第2期第1回環境教育・環境学習推進懇話会を終了する。